

夜都伎（やつぎ）神社

『天理市乙木町の北方集落から離れた宮山（たいこ山ともいう）に鎮座し俗に春日神社といい、春日の四神を祀る。

乙木には、もと夜都伎神社と春日神社の二社があったが、夜都伎神社の社地を竹之内の三間塚池と交換して春日神社一社にし、社名のみを変えたのが現在の夜都伎神社である。当社は昔から奈良春日神社に縁故深く、明治維新までは当社から蓮のお供えと称する神選を献供し、春日から若宮社殿と鳥居を下げられるのが例となっていると伝わる。

現在の本殿は明治39年（1906年）改築したもので、春日造り檜皮葺、高欄、浜床、向拝彩色7種の華麗な同形の四社殿が末神の琴平神社と並列して美観を呈する。拝殿は藁葺でこの地方では珍しい神社建築である。

鳥居は嘉永元年（1848）4月奈良の春日若宮から下げられたものという』
（神社にある由緒の説明から）

「やつぎ」は美しい響きだが、土地の名の「乙木（おつぎ）」から来ているらしい。乙木村は古くは興福寺大乘院及び春日大社領の乙木荘で、そのため春日の神のたけみかづち武甕槌命・ふつぬしのみこと経津主命・あめのこやね天兒屋根命・姫大神を勧請して、祭神としている。

神を支配することは、その神を祭る人々を支配することに他ならない。奈良から南山城にかけての地域には春日神社が多いが、そこは中世に興福寺、春日大社の支配地になっていたところである。

ところで社伝によると、元々当地にあったのは春日神社で、夜都伎神社は別のところにあったが、春日神社一社にして名前を夜都伎神社に変えたとある。その時に夜都伎神社の祭神は春日の神になったのであろうが、元の夜都伎神社には別の神がいたはずである。その神はどうしたのであろう。おそらくはこの静かな乙木の土地の神であったに違いないが、神社の後の深い森に帰ったのであろうか。

写真の拝殿は神社建築とは思えない重量感のある萱葺で、土地神が住んでいた時代の神社の姿を伝えているようである。

